# 史跡探訪感想文

## 市内―明礬地区史跡探訪に参加して

石川　学

八月二十二日（日）別府史談会主催の「明礬地区史跡探訪」に四十数名の方々といっしょに参加しました。

午前九時過ぎに別府史談会後藤重巳会長、脇屋商会飯倉里美社長、旅館岡本屋岩瀬公男社長のあいさつがあり、明礬地区の史跡の探訪がスタートしました。

別府史談会副会長の恒松栖先生の身振り手振りによる詳しい説明を聴きながら、暑いひざしも忘れて楽しく時間が過ぎました。

初めに脇屋商会本宅の近くに神井（しんい）泉という温泉があり、これを囲んだ坂本屋、東屋、梅屋、大阪屋という四軒の旅館、木賃宿があったそうですが現在はなくなってしまい、地区の方々の温泉となっていました。また、西側の山は終戦後、白土（珪酸白土でセメント等の原材料）を掘り出したために地形が変わってしまい、現在は県の地すべり地区に指定され、コンクリートで固められてしまいました。付近一帯は湯の花づくりに大切な青粘土の採取地でしたが、採取できなくなり他の場所でのボーリングによって青粘土をさがしているそうです。

さらに進んで山の手の「山の湯」付近は絶好の展望地で、湯の花小屋、明礬地獄、旅館街、別府明礬橋、別府市街地、別府湾、高崎山、大分市街地が一望でき、すばらしい景観でした。山の湯もいろいろないきさつの後、環境整備して温泉・食堂等に岡本屋旅館の力で開発したそうです。

大和屋の高橋友彦明礬地区公民館長のお世話で、野上三郎さんが昭和五十八年八十歳の記念に描いた「明礬地区の最盛期の様子」の水墨画を見学しました。

続いて、西南の高台にある明礬八十八ヶ所を見学、お参りしました。奥には水量豊富なお滝もありました。ここは昭和五十年から三十年あまりかけて上尾（あがりお）さんという方が整備したと伝えられています。

高台から地蔵湯の横を通り岡本屋の売店まで来て、休憩と記念写真を撮りました。

旅館山田屋さんの離れの温泉、別府市内唯一の緑盤泉を見学しました。付近にはうたせ湯（滝湯）の孔の跡が残された

石垣もみられました。昭和三十七年、明礬に大火があり、朝日屋、湯元屋、えびすやが焼失してしまいました。

岡本屋旅館の北西側に以前（昭和二十四年まで）使っていた湯の花組合の倉庫があり、地区で生産された湯の花を牛馬でここに運び、さらに本格的に荷造りして馬車で港へ運び出していたということです。

そののち岡本屋旅館の庭にある湯の花組合の記念碑や露天風呂を見学したあと、再び西側へ登って明礬地区のほぼ中央を流れる八川（やつかわ）の小橋を渡りました。

この小川がかつて幕府領と玖珠領の境であったということで、小川の南側が久留島領の鶴見村、北側が天領の野田村でした。

最後に朝の出発点となった湯の里に戻り湯の花小屋を見学しました。さらに二階の食堂に集合して、脇屋家に伝えられる古文書の明礬山初覚や明礬の結晶を見学しました。

昼食後、解散しました。盆過ぎの暑い日でありましたが、楽しい市内史跡探訪でした。